

2 学習情報の提供と学習相談体制の充実

(1) 現況と課題

市では、生涯学習センター・アビスタを拠点として学習情報*の収集と提供を行ってきました。

紙媒体の情報としては、広報「あびこ」、公民館・図書館などの情報紙、子ども向けの情報紙「あびっ子ネット*」、あびこ楽校ニュース・あびこ楽校ガイド・生涯学習団体グループ情報紙などを市内公共施設などに設置し広報に努め、生涯学習の推進を図ってきました。ネット媒体では、鳥の博物館ホームページや市ホームページの学習情報をはじめ、リンクされた施設・団体の学習情報が発信されています。

広報「あびこ」では、掲載する生涯学習関連事業に「楽」マークをつけ、生涯学習の啓発に努めています。また、出前講座の情報はホームページからも発信し、講座メニューの追加・更新を随時行っています。

小学校・中学校・高等学校・大学等と情報提供を図ることにより、児童・生徒、学生が地域とのつながりを深めることができます。

多くの情報が発信されていますが、一方的な提供では情報が適切に伝わらない場合もあり、必ずしも学習に結びきません。このため、「何かを学びたい、習ってみたい」「やりたいことはあるが、どうやって学べば良いのか」という市民が学習相談できる場の充実が必要です。

学習情報の提供では、ハンディキャップ*のある方への対応が十分ではありません。広報「あびこ」は、視覚障害のある方のため声の広報を作成しています。しかし、外国語による学習情報や生涯学習関連施設内の案内なども少ないのが現状です。だれもが、学びやすい環境づくりのために一層の充実が必要です。

(2)主要施策

- 1 生涯学習情報の収集と提供システムの確立
- 2 生涯学習に対する支援体制・相談システムの充実
- 3 小学校・中学校・高等学校・大学との学習情報のネットワーク*化
- 4 国際化に対応した学習情報の収集と提供
- 5 企業・研究機関・NPO・市民団体等との連携

(3)施策の展開

生涯学習センター・アピスタを拠点として学習情報の収集と提供を充実させ、市民が情報を取得しやすいように整備・拡充します。

収集した情報が市民の学習に活かされるように、学習相談体制を充実します。小学校・中学校・高等学校・大学と連携を進め、学習情報の共有化を図ります。

企業・研究機関・NPO・市民団体等との連携、学習情報の収集と提供を進めます。

国際化に対応した学習情報の収集と提供を進めます。推進にあたっては、我孫子市国際交流協会(AIRA)*との連携を図ります。

ハンディキャップのある方も学習情報を利用しやすいよう、学習情報の収集、提供を進めます。